

# 第1章 豆類の需給と流通事情

## I. 全国の豆類作付面積と生産量

(単位：ha・俵・%)

区分 年産	全 国 合 計		北 海 道 合 計		全国に占める北海道の比率
	作付面積	生 産 量	作付面積	生 産 量	作付面積
16	191,540	4,720,000	59,840	2,466,700	31
17	183,759	5,516,600	59,559	2,443,300	32
18	184,732	5,203,300	60,212	2,401,600	33
19	181,888	5,236,600	56,338	2,208,300	31
20	190,533	5,925,000	57,783	2,358,400	30
21	188,692	4,976,700	58,592	1,831,600	31
22	180,362	4,999,000	58,762	2,120,000	33
23	177,799	4,811,200	59,829	2,052,300	34
24	171,885	5,368,400	60,905	2,470,000	35
25	170,523	4,720,000	61,683	2,345,000	36
26	173,278	5,485,000	63,858	2,756,700	37
27	179,967	5,538,400	65,817	2,836,700	37
28	180,326	4,552,600	64,806	1,949,700	36
29	180,553	5,388,400	66,033	2,778,300	37
30	178,108	4,386,100	66,448	2,178,800	37
元	176,209	4,838,300	66,689	2,608,300	38
2	175,936	4,595,300	68,146	2,841,100	39
3	176,849	4,931,600	67,879	2,785,700	38
4	181,275	4,890,600	68,335	2,938,200	38
5	185,641		71,921		39

※3年産以降の北海道の生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

※えん豆の生産量は除く。

(単位：ha・俵)

区分 年度	大 豆						小 豆					
	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量
16	136,800	2.02	2,756,700	17,000	3.88	660,000	42,600	3.53	1,508,300	31,900	4.30	1,371,700
17	134,000	2.82	3,773,300	21,100	4.13	873,300	38,300	3.43	1,315,000	28,200	4.12	1,160,000
18	142,100	2.69	3,820,000	28,100	4.15	1,168,300	32,200	3.30	1,065,000	22,800	4.10	933,300
19	138,300	2.73	3,778,300	22,700	3.93	893,300	32,700	3.35	1,093,300	23,800	4.07	968,300
20	147,100	2.97	4,361,700	24,000	3.95	946,700	32,100	3.60	1,155,000	23,400	4.37	1,021,700
21	145,400	2.63	3,831,700	24,500	3.30	808,300	31,700	2.78	880,000	23,500	3.30	775,000
22	137,700	2.69	3,708,300	24,400	3.95	963,300	30,700	2.98	915,000	23,200	3.50	811,700
23	136,700	2.67	3,646,700	26,400	3.78	998,300	30,600	3.27	1,000,000	23,800	3.78	900,000
24	131,100	3.00	3,931,700	27,200	4.17	1,133,300	30,700	3.70	1,136,700	24,400	4.30	1,050,000
25	128,800	2.58	3,331,700	26,800	3.82	1,040,000	32,300	3.52	1,133,300	26,200	4.05	1,061,700
26	131,600	2.93	3,863,300	28,600	4.28	1,226,700	32,000	4.00	1,280,000	26,300	4.57	1,201,700
27	142,000	2.85	4,051,700	33,900	4.22	1,431,700	27,300	3.88	1,061,700	21,900	4.53	991,700
28	150,000	2.65	3,966,700	40,200	3.50	1,406,700	21,300	2.30	491,700	16,200	2.78	451,700
29	150,200	2.80	4,216,700	41,000	4.08	1,675,000	22,700	3.92	890,000	17,900	4.63	830,000
30	146,600	2.40	3,521,700	40,100	3.42	1,371,700	23,700	2.96	701,700	19,100	3.42	653,300
元	143,500	2.53	3,630,000	39,100	3.77	1,473,300	25,500	3.86	985,000	20,900	4.42	923,300
2	141,700	2.57	3,648,300	38,900	3.98	1,550,000	26,600	3.25	865,000	22,100	4.61	1,019,300
3	146,200	2.81	4,108,300	42,000	4.18	1,756,700	23,300	3.02	703,300	19,000	4.39	834,800
4	151,600	2.67	4,046,700	43,200	4.43	1,914,000	23,200	3.02	701,700	19,100	4.35	831,000
5	154,800			45,400			24,700			20,800		

※小豆類の3年産以降の北海道の反収、生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

(単位：ha・俵)

区分 年度	い ん げ ん						え ん 豆					
	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量	全 国 作付面積	反収	全 国 生 産 量	北 海 道 作付面積	反収	北 海 道 生 産 量
16	11,800	3.85	455,000	10,600	4.10	435,000	340	-	-	340	-	-
17	11,200	3.82	428,300	10,000	4.10	410,000	259	-	-	259	-	-
18	10,000	3.18	318,300	8,880	3.38	300,000	432	-	-	432	-	-
19	10,400	3.52	365,000	9,350	3.70	346,700	488	-	-	488	-	-
20	10,900	3.75	408,300	9,950	3.92	390,000	433	-	-	433	-	-
21	11,200	2.37	265,000	10,200	2.43	248,300	392	-	-	392	-	-
22	11,600	3.17	366,700	10,800	3.20	345,000	362	-	-	362	-	-
23	10,200	1.61	164,500	9,330	1.65	154,000	299	-	-	299	-	-
24	9,650	3.12	300,000	8,870	3.23	286,700	435	-	-	435	-	-
25	9,120	2.80	255,000	8,380	2.90	243,300	303	-	-	303	-	-
26	9,260	3.68	341,700	8,540	3.85	328,300	418	-	-	418	-	-
27	10,200	4.17	425,000	9,550	4.33	413,300	467	-	-	467	-	-
28	8,560	1.10	94,200	7,940	1.15	91,300	466	-	-	466	-	-
29	7,150	3.93	281,700	6,630	4.13	273,300	503	-	-	503	-	-
30	7,350	2.21	162,700	6,790	2.27	153,800	458	-	-	458	-	-
元	6,860	3.26	223,300	6,340	3.34	211,700	349	-	-	349	-	-
2	7,370	1.12	82,000	6,880	3.95	271,800	266	-	-	266	-	-
3	7,130	1.68	120,000	6,660	2.92	194,200	219	-	-	219	-	-
4	6,220	2.29	142,200	5,780	3.34	193,200	255	-	-	255	-	-
5	5,860			5,440			281	-	-	281	-	-

※3年産以降の北海道の反収・生産量はホクレン推算。それ以外は統計情報事務所発表値。

## II. 豆類消費実績

道産豆類の消費量は、平成26雑豆年度では2,231千俵であったが、令和5雑豆年度では2,680千俵と当時と比較し、金時においては減少、大豆が大幅増と推移しており、面積背景が大きく影響している。

### 1. 小豆類

小豆類については、平成24雑豆年度から続く平年を上回る収量と面積増加により、安定した供給背景から平成26雑豆年度にかけて消費を伸ばした。以降、台風等の天候要因による不作・新型コロナウイルスの影響を受け消費を落としたが、令和5雑豆年度においては人流の増加に伴う土産物や菓子の需要回復により、道産消費実績については873千俵となった。

### 2. いんげん類

大手亡・金時については、安定した供給背景から一定程度の消費を維持していたが、小豆類同様消費を落とし、大手亡については、令和5雑豆年度で58千俵と回復してきている。

金時については、128千俵と一昨年から回復していた消費を落としている。

### 雑豆類の消費実績

(単位：千俵)

豆年度	500	1,000	1,500	2,000	2,500	3,000	3,500	計
26年	小豆1,350		手亡490	菜豆340	えん豆260			2,440
27年	小豆1,200		手亡420	菜豆350	えん豆260			2,230
28年	小豆1,250		手亡490	菜豆340	えん豆250			2,330
29年	小豆1,330		手亡510	菜豆320	えん豆280			2,440
30年	小豆1,200		手亡490	菜豆280	えん豆290			2,260
元年	小豆1,220		手亡470	菜豆310	えん豆280			2,280
2年	小豆1,120		手亡370	菜豆280	えん豆300			2,070
3年	小豆1,150		手亡350	菜豆320	えん豆250			2,070
4年	小豆1,290		手亡350	菜豆280	えん豆250			2,170
5年	小豆1,320		手亡350	菜豆290	えん豆220			2,180

※ 雑豆年度：前年10月～9月

### 道産豆類の消費実績

(単位：千俵)

豆年度	500	1,000	1,500	2,000	2,500	計
26年	小豆938	手亡86 金時166 他42	大豆999			2,231
27年	小豆865	手亡81 金時170 他43	大豆1,111			2,270
28年	小豆950	手亡81 金時178 他40	大豆1,218			2,467
29年	小豆948	手亡91 金時164 他33	大豆1,332			2,568
30年	小豆861	手亡72 金時133 他4	大豆1,343			2,438
元年	小豆770	手亡71 金時147 他	大豆1,593			2,606
2年	小豆676	手亡48 金時123 他	大豆1,474			2,347
3年	小豆752	手亡57 金時135 他	大豆1,528			2,495
4年	小豆864	手亡58 金時139 他	大豆1,647			2,730
5年	小豆873	手亡58 金時128 他	大豆1,599			2,680

### Ⅲ. 道産豆類の需給見込み

#### 1. 雑 豆

##### (1) 小豆類

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品 目	面 積	反 収	生産量	商品化数量	前年産繰越量	供給量計	年 間消費量	次 期繰越量	在庫量
5	大 納 言	1,726	2.9	49.5	46.6	33.7	80.3	57.2	23.1	4.8 カ月
	小 豆	19,074	4.1	779.9	710.7	553.1	1,263.8	815.8	448.0	6.6 カ月
	小豆類	20,800	4.0	829.4	757.3	586.8	1,344.1	873.0	471.1	6.5 カ月
6	大 納 言	1,800	3.5	62.8	59.7	23.1	82.8	57.2	25.6	5.4 カ月
	小 豆	20,300	4.3	874.9	831.2	448.0	1,279.2	815.8	463.4	6.8 カ月
	小豆類	22,100	4.2	937.7	890.9	471.1	1,362.0	873.0	489.0	6.7 カ月

※5年産小豆類作付面積は、北海道農政事務所統計部発表値。大納言・小豆の面積はホクレン推算値。

※6年産作付面積は作付指標値。反収は過去7中5値。

※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算値。

※5年産・6年産の小豆類年間消費量は4年産消費実績。

- ア. 小豆類の5年産作付状況については20,800ha（前年差+1,700ha）と増加したものの、収量は4.0俵/反と平年を下回り、年間消費量を下回る生産量となった。
- イ. 値上げ・内容量の減少からパン・コンビニ向けの道産小豆消費がやや減退したが、人流の増加により土産物や菓子の需要が回復していることから、5年産の年間消費量については873.0千俵を維持と設定し、次期繰越量は6.5カ月分となる。
- ウ. 消費の維持・増加の背景には、北海道産小豆の安定供給体制が必要不可欠であることから、令和6年産の生産にあたっては、作付指標面積の維持・拡大が必要である。
- エ. 今後については、面積拡大のための様々な対策を実施していくとともに、生産者から実需者までを結び付けた契約栽培の拡充を行い、価格の安定化を図っていく。

##### (2) いんげん類・えん豆類

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品 目	面 積	反 収	生産量	商品化数量	前年産繰越量	供給量計	年 間消費量	次 期繰越量	在庫量
5	大 手 亡	1,260	3.9	48.6	45.1	42.4	87.5	58.3	29.2	6.0 カ月
	赤系金時	3,839	3.5	132.7	124.9	106.8	231.7	124.7	107.0	10.3 カ月
6	大 手 亡	1,700	4.1	69.2	65.7	29.2	94.9	58.3	36.6	7.5 カ月
	赤系金時	5,040	2.9	144.6	137.4	107.0	244.4	124.7	119.7	11.5 カ月

※5年産作付面積は、ホクレン推算値。

※6年産作付面積は作付指標値。反収は過去7中5値。

※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算値。

ア. 大手亡の5年産生産状況について、作付面積は1,260ha（前年差▲60ha）と前年より減少し収量は3.9俵/反と平年をやや下回った。一方、消費については土産物や菓子の需要が人流の増加により回復傾向にあり、生産量が消費量を下回っているため、令和6年産の生産にあたっては、面積の拡大が必要である。

イ. 赤系金時の5年産生産状況について、作付面積は3,839ha（前年差▲210ha）と前年と比較して減少したが、収量は3.5俵/反と平年を上回る状況となった。

近年の気象経過により、年産毎の作柄変動が大きいことから、安定した供給体制の確立に向けて6年産については面積の拡大が必要である。

ウ. 中長うずら・高級菜豆・えん豆は、作付面積及び需要が小さく、作柄により需給状況が変動しやすい品目であることから、実需者は需要に見合った供給を望んでおり、道産需要の維持のために計画的な作付による安定供給体制の確立が必要である。

## 2. 大豆

### (1) 普通大豆

項目	年産 単位	5年産		4年産実績		対 比	
		全 国	うち北海道	全 国	うち北海道	全 国	うち北海道
作付面積	(ha)	154,800	40,970	151,600	38,020	102%	108%
反 収	(kg)	164	265	160	265	103%	100%
生 産 量	(ト)	253,900	108,700	242,800	100,600	105%	108%

※全国の5年産面積・4年産面積・反収・生産量は統計情報発表にて「黒大豆」を含む。

※全国の5年産反収は、10月末現在系統見込。5年産生産量は統計情報面積と系統見込反収より推算。

※北海道の面積・反収・生産量はホクレン推算。

ア. 4年産の全国生産量は、作付面積が前年産に比べ5,400ha（前年比104%）増加したものの、前年産を下回る収量となったため、生産量は242,800トン（前年比98%）と減少した。

北海道産については、作付面積が前年産から1,550ha（前年比104%）増加し、前年並の収量となったため、生産量は100,600トン（前年比103%）と増加した。

イ. 5年産の全国の作柄は、作付面積ならびに収量の増加により、生産量は前年産を上回る253,900トン（前年比105%）と見込まれる。

主産地の北海道は、播種から成熟期の期間を通して気温が高く生育は平年より早く進んだものの、収穫期以降に気温が高く推移したことによる落葉の遅れと断続的な降雨の影響を受け、収穫作業が停滞したことから、全道的に商品化率・品位の低下がみられる。一方で前年から面積が増加しているため生産量は前年を上回る108,700トン（前年比108%）と見込まれる。

ウ. 販売面については、巣ごもり需要の一服、大豆加工品の値上げに伴う一時的な販売の停滞、また、海上輸送事情回復による輸入大豆の調達不安が払しょくされたこと等により販売は鈍化している。

エ. 輸入大豆については、世界全体の大豆生産量が南米での増産により前年を上回る見通し。旺盛な消費により期末在庫は依然としてタイトな状況の中で、干ばつ等の影響を受けた北米を中心に生産量が下方修正となり、動向が注視されている。

オ. 5年産北海道産大豆において、大粒とよまさりは安定的な需要が見込まれている。また、納豆小粒銘柄においては、令和4年産では需給は均衡に向かい堅調な販売となり、納豆需要に対する供給が求められている。

## (2) 黒大豆

(単位：ha、俵、千俵)

年産	品目	面積	反収	生産量	商品化数量	前年産繰越量	供給量計	年間消費量	次期繰越量	在庫量
5	黒大豆	1,958	3.9	75.6	71.4	81.4	152.8	100.8	52.0	6.2カ月
6		3,000	3.6	107.7	102.3	52.0	154.3	100.8	53.5	6.4カ月

※5年産作付面積は、ホクレン推算値。

※6年産作付面積は作付指標値。反収は過去の反収の7中5値。

※反収・生産量・商品化数量・年間消費量はホクレン推算。

ア. 黒大豆の5年産生産状況について、面積は指標面積を下回る1,958ha（前年差▲625ha）となり、収量は3.9俵/反と平年を上回ったものの、年間消費量を下回る生産量となった。

イ. 5年産は全道的に高水分・しわ粒が発生しており、実需者からは安定した品位での供給を求められることから、令和6年産の生産にあたっては、面積の拡大が必要である。

雑豆の通関実績

(1) 小豆

(単位：トン)

豆年度	10,000		20,000		30,000		40,000		50,000	
26年	中国	16,670	カナダ	9,730	—他		1,070		27,470	
27年	中国	11,020	カナダ	8,070	—他		850		19,940	
28年	中国	8,350	カナダ	9,000	—他		450		17,800	
29年	中国	11,080	カナダ	10,940	—他		440		22,460	
30年	中国	11,550	カナダ	9,930	—他		760		22,240	
元年	中国	13,660	カナダ	15,330	—他		1,380		30,370	
2年	中国	13,040	カナダ	14,400	—他		530		27,970	
3年	中国	5,350	カナダ	14,060	—他		1,970		21,380	
4年	中国	11,200	カナダ	14,010	—他		1,380		26,590	
5年	中国	13,690	カナダ	15,030	—他		2,080		30,800	

(2) いんげん

(単位：トン)

豆年度	10,000		20,000		30,000		40,000		50,000		60,000	
26年	米国	7,710	カナダ	6,620	ミャンマー	5,950	中国	3,720	—他		900	
27年	米国	7,080	カナダ	6,850	ミャンマー	6,020	中国	3,550	—他		1,010	
28年	米国	5,470	カナダ	6,700	ミャンマー	9,630	中国	3,510	—他		1,230	
29年	米国	6,430	カナダ	6,810	ミャンマー	8,550	中国	3,320	—他		1,270	
30年	米国	7,350	カナダ	7,680	ミャンマー	8,130	中国	3,610	—他		1,010	
元年	米国	8,340	カナダ	8,130	ミャンマー	8,350	中国	2,980	—他		1,700	
2年	米国	5,510	カナダ	3,270	ミャンマー	6,420	中国	2,760	—他		1,660	
3年	米国	2,930	カナダ	7,390	ミャンマー	5,610	中国	2,390	—他		1,310	
4年	米国	4,090	カナダ	6,610	ミャンマー	7,320	中国	2,260	—他		2,980	
5年	米国	3,950	カナダ	8,050	ミャンマー	5,340	中国	1,920	—他		3,150	

(3) えん豆

(単位：トン)

豆年度	10,000				20,000				
26年	カナダ	7,350	英国	3,140	米国	2,110	他	2,070	14,670
27年	カナダ	7,550	英国	2,820	米国	2,010	他	1,380	13,760
28年	カナダ	6,390	英国	4,400	米国	2,670	他	1,670	15,130
29年	カナダ	6,850	英国	3,940	米国	4,270	他	2,070	17,130
30年	カナダ	5,690	英国	3,500	米国	4,410	他	3,280	16,880
元年	カナダ	6,150	英国	4,080	米国	3,560	他	2,040	15,830
2年	カナダ	8,730	英国	2,620	米国	4,860	他	2,510	18,720
3年	カナダ	6,770	英国	2,400	米国	4,660	他	1,890	15,720
4年	カナダ	6,900	英国	3,190	米国	2,500	他	2,180	14,770
5年	カナダ	6,280	英国	1,870	米国	1,380	他	1,510	11,040



## (4) そら豆

(単位：トン)

豆年度	5,000				10,000			
26年	中国	4,040	オーストラリア	970	—他	190		5,200
27年	中国	4,220	オーストラリア	1,000	—他	220		5,440
28年	中国	3,810	オーストラリア	1,130	—他	60		5,000
29年	中国	3,710	オーストラリア	950	—他	130		4,790
30年	中国	3,410	オーストラリア	1,130	—他	260		4,800
元年	中国	3,500	オーストラリア	1,030	—他	290		4,820
2年	中国	2,770	オーストラリア	850	—他	250		3,870
3年	中国	1,690	オーストラリア	700	—他	140		2,530
4年	中国	2,250	オーストラリア	880	—他	210		3,340
5年	中国	1,620	オーストラリア	1,310	—他	270		3,200

## (5) 加糖アン

(単位：トン)

豆年度	20,000				30,000				40,000				50,000				60,000				70,000				80,000				90,000				100,000			
26年	中国	70,140																—他	860	71,000																
27年	中国	64,970																—他	1,070	66,040																
28年	中国	62,730																—他	1,180	63,910																
29年	中国	58,320																—他	1,300	59,620																
30年	中国	57,980																—他	1,560	59,540																
元年	中国	56,790																—他	2,160	58,950																
2年	中国	54,030																—他	2,420	56,450																
3年	中国	54,170																—他	2,080	56,250																
4年	中国	41,970																—他	1,340	43,310																
5年	中国	36,850																—他	1,270	38,120																